



福島第一原子力発電所事故に対する 日本保健物理学会の活動

平成24年7月10日

一般社団法人日本保健物理学会

副会長 服部隆利



当学会の福島事故の関連活動

- 専門家が答える暮らしの放射線Q & Aサイト
 - ボランティアによる立上げ(H23年3月25日)
 - 暮らしの放射線Q & A活動委員会の発足(H23年8月24日)
- 福島事故対応シンポジウム(東大小柴ホール)
 - 第1回 原子力防災対策とその基準(H23年6月16日)
 - 第2回 公衆の被ばくに焦点を当てて(H23年8月12日)
 - 第3回 課題・論点の総括と今後の展望(H23年12月17日)
 - 第4回 事故発生から1年を振り返って(H24年3月4日)
- その他
 - 第44回水戸大会 福島事故セッション(H23年10月18日) 5セッション 27発表
 - 平成23年度保物セミナー(大阪科学技術センター)(H24年1月23日)
 - 第45回名古屋大会 3つの福島事故シンポジウム【1つは公開シンポジウム】(H24年6月16-17日)

お知らせ

▶ もっと見る

- 2012/06/25 [平成24年度学会賞授賞者の公布について](#)
- 2012/06/13 [専門研究会新規設置のお知らせ](#)
- 2012/06/12 [日本放射線安全管理学会\(JRSM\)6月シンポジウム](#)
- 2012/06/04 [市民公開シンポジウム\(2012年6月17日、名古屋大学\)のお知らせ](#)
- 2012/05/26 [【重要】第1回定時社員総会の出欠確認と委任手続きのお願い](#)
- 2012/05/16 [第1回定時社員総会開催のお知らせ](#)
- 2012/04/17 [福島第一原子力発電所事故に関する放射線防護上の課題](#)

▶ 暮らしの放射線Q&A

Q&A

▶ 若手研究会



▶ 学友会



▶ 会員専用
意見交換の場



専門家が答える 暮らしの放射線Q&A

日本保健物理学会

約1,600問掲載
延3百万ページアクセス以上
Twitterフォロワー約5,000名

公開中:1620件 最終更新日:2012/7/4

放射線の人体への影響

放射線の食物への影響

放射線の水への影響

その他

新着Q&A

注目のQ&A

Q&Aをさがす

がれき焼却について

[その他] (原子力(放射能), 情報提供, 放射性廃棄物)

7月4日掲載 福岡県在住 40代 会社員 男性 の方からいただいたご質問

ツイート 6

構造材と床材に群馬県産材の杉を使って家を新築する予定です。

[放射線の人体への影響] (原子力(放射能), 子供, 放射性物質, 木造住宅, 被ばく線量, 身体影響)

7月4日掲載 群馬県在住 30代 専業主婦 女性 の方からいただいたご質問

ツイート 5

福島市の、強風時のセシウム等の舞上がりはどの程度でしょうか。

[放射線の人体への影響] (マスク, 人, 原子力(放射能), 放射性物質, 線量係数, 被ばく線量)

7月4日掲載 40代 公務員 女性 の方からいただいたご質問

ツイート 17

24時間換気システムの室内への吹き出し口について

[放射線の人体への影響] (原子力(放射能), 換気, 放射性物質, 放射線測定)

6月30日掲載 東京都在住 自営業 女性 の方からいただいたご質問

ツイート 5

千葉県柏市からオークションで購入した車について

[放射線の人体への影響] (ホットスポット, 人, 原子力(放射能), 放射性物質, 汚染・除染, 被ばく, 身体影響)

6月29日掲載 大阪府在住 30代 専業主婦 女性 の方からいただいたご質問

ツイート 5

続きを読む

注目の話題

人工放射線と自然放射線の違い

過去の核実験との相違点

全国モニタリング結果の入手

換気や洗濯物

1mSv、100mSvの被ばく

続きを読む

お知らせ

お詫びと訂正(平成24年6月27日
掲載の記事について)
(2012/06/30)



回答作成のスタンス

- 投稿者を尊重し、一つ一つの質問に丁寧に回答する
 - 類似の質問が過去にあっても無視しない
 - オリジナルの質問文と回答者の肉声を大事にする
- 分かりやすい言葉で客観的事実を述べる
 - 個別の被ばく状況に応じて線量を試算する
 - 科学的データと比較する(疫学データ、自然放射線レベル)
- 回答者の個人的な考えを控えめに添える
 - 「~に注意が必要でしょう」「~を心配する必要はないでしょう」
 - あくまでも最終的な判断は投稿者が行う（判断を強制しない）
 - リスクに見合った行動の考え方を提供する
- 学会の品位を汚さない

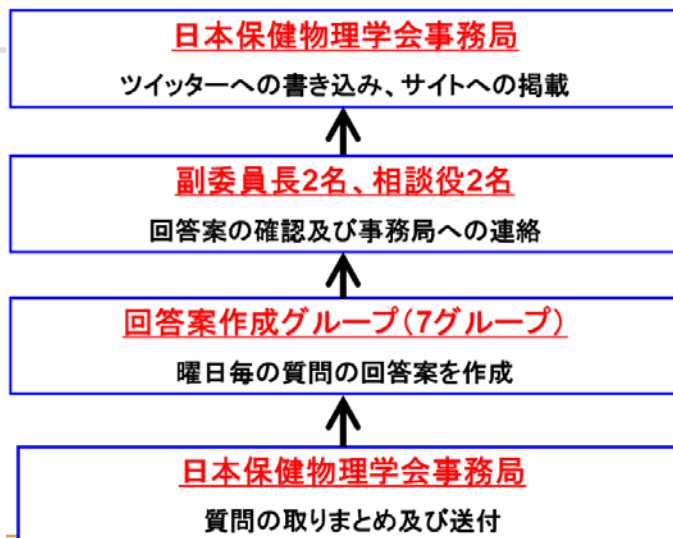
暮らしの放射線Q&A活動委員会

暮らしの放射線Q&A活動委員会からのお知らせ

このWebサイトは、当初は、日本保健物理学会の会員を中心とした有志により運営して参りましたが、平成23年8月24日から有志の活動の考え方を引き継ぎ、日本保健物理学会の「暮らしの放射線Q&A活動委員会」により運営しています。

皆様から寄せられた質問に対しては、委員会メンバーである国内主要大学(東京大学、京都大学、名古屋大学等)、日本原子力研究開発機構、メーカー(千代田テクノル、富士電機等)の若手研究者約30名が分担して回答案を作成し、更に、放射線防護・放射線管理の研究に長年携わっている専門家約10名が相談役として回答を確認し、公表しています。

サイト開設以来、「頂いた質問には全てお答えしたい」という考えで運営していますが、質問が集中した場合には回答に時間がかかってしまうこともあります。これからも一つ一つ丁寧に回答していきたいと思いますので、予めご了解いただければと思います。



福島事故対応シンポジウム I

➤ 基調講演

- 原子力防災対策に関する基準と今回の適用について 杉浦紳之
(近大(現 放医研))

➤ テーマ別討論

- 屋内退避・避難 甲斐倫明(大分看大)
- 安定ヨウ素剤投与 石原 弘(放医研)
- 飲食物の規制 稲葉次郎(環境技研)

➤ 総合討論

- Q&Aサイト概要
- 現地状況
- 若手・学生からの発言



福島事故対応シンポジウム II

➤ 基調講演

- 福島原子力発電所事故の展望 田中俊一(元原子力委員会委員長代理)

➤ 周辺住民の被ばく

- 周辺地域の汚染状況に関する詳細調査 斎藤公明(原子力機構)
- 一時立ち入りの現状から 立崎英夫(放医研)

➤ 首都圏の汚染状況と市民生活への影響

- 首都圏の汚染状況 飯本武志(東大)
- 災害廃棄物・汚泥の処理処分 杉浦紳之(放医研)
- 公衆の不安・疑問～学会Q&Aサイトの分析から 下 道國(藤田保健衛生大)
- 若手からの提言 河野恭彦(原子力機構)

➤ 総合討論

- 現地の経験を踏まえて 保田浩志(放医研)



福島事故対応シンポジウム III

- 公衆の被ばく線量評価・線量再構築
 - 公衆の被ばく線量評価の現状と課題 高橋知之(京大)
 - 放射性物質の大気拡散評価 永井晴康(原子力機構)
 - 小児甲状腺スクリーニング検査等の結果 福島靖正(内閣府原子力災害対策本部)
 - 食品汚染の現状 山口一郎(保健医療科学院)
- 緊急時作業に対する線量限度
 - 基準策定－放射線審議会の議論から 杉浦紳之(放医研)
 - 基準の運用実態と今後の課題 菅井研自(東電)
- 事故に伴う放射性廃棄物の管理
 - 廃棄物の発生・保管状況 森口祐一(東大)
 - 現存被ばく状況における廃棄物管理の枠組み 杉山大輔(電中研)
- 日本保健物理学会の対応
 - 個人線量測定に関する課題 高田千恵(原子力機構)
 - 事故後9ヶ月間の放射線リスクコミュニケーション 荻野晴之(若手研)
 - 課題と論点の整理 服部隆利(電中研)



福島事故対応シンポジウム IV



➤ 基調講演

- 総括と海外の反応 小佐古敏荘(学会長)

➤ 特別講演

- 放射線防護についての報道と合理的防護基準の策定 丹羽太貫(京大)
- 除染活動における放射線防護 古田定昭(原子力機構)
- パネルディスカッション 保健物理学会の果たすべき役割を考える
 - 保健物理学会の対応と提言 服部隆利(学会副会長)
 - 暮らしのQ&A 活動から見えた課題と対応 河野恭彦(Q&A活動委員会)
 - 新たな取り組みへの抱負 小池裕也(若手研)
 - 海外への情報発信と連携に向けて 服部隆利(国際対応委員会)
 - 標準化に係る課題と対応 山本正史(放射線防護標準化委員会)
 - 専門的課題と人材育成への取り組み 百瀬琢磨(企画委員会)
 - 総合討論



放射線防護上の重要な課題

(#)は課題が挙げられた第#回シンポジウムを示す

1) すべての状況に係る共通課題

(課題1) 放射線リスクに対する公衆の不安・疑問への対処方法 (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)

(課題2) 空間線量率、表面汚染密度、食品中の放射性物質濃度等の測定方法
(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)

2) 緊急時被ばく状況に係る課題

(課題3) 屋内退避・避難基準 (Ⅰ)

(課題4) 安定ヨウ素剤投与 (Ⅰ)

(課題5) 食品・飲料水摂取制限の考え方 (Ⅰ)

(課題6) 除染のためのスクリーニング基準 (Ⅰ)

(課題7) 緊急作業従事者の線量限度 (Ⅰ, Ⅲ)

(課題8) 放射性ヨウ素による甲状腺等価線量の事後調査 (Ⅲ)

3) 現存被ばく状況に係る課題

(課題9) 校庭、飼料、作付土壌、肥料、水浴場等の利用判断基準 (Ⅰ)

(課題10) 警戒区域内への一時立入りの方法 (Ⅱ)

(課題11) 放射性セシウムを含むがれき、汚泥および除染土壌等の廃棄物管理
(Ⅱ, Ⅲ)



学会の対応と提言の発表

- 福島事故の関連活動で挙げられた放射線防護上の課題を、被ばくの状態に応じて、11件の課題に整理
- 各課題別に31件(4件重複のため27件)の論点を整理し、5つの学会の対応方針を提示
- 以下の点を考慮し、16件(4件重複のため12件)の提言を作成
 - 1) 様々な緊急時の放射線安全の考え方を俯瞰してみることで、現行の放射線安全体系をどのように進化させていく必要があるかの視点に重点をおく
 - 2) 多くの放射線防護の専門家を擁する当学会の特徴を生かし、将来的に放射線防護体系が目指すべき方向性を示す

福島第一原子力発電所事故に関する放射線防護上の課題

- 日本保健物理学会の対応と提言 -

平成 24 年 4 月 17 日

(社) 日本保健物理学会



国際的な情報発信(IRPA13)



S12.1 Japan HPS: Fukushima Issues

Type: Symposium
Date: Tuesday, May 15, 2012
Time: 09:00 - 10:30
Room: Clyde Auditorium
Chair: Toshiso Kosako
Rapporteur: Ted Lazo

09:00	Overview. T Kosako	S12.1.1
09:15	Environmental and Personal Monitoring. T Momose	S12.1.2
09:40	Public Concern Regarding Fukushima Accident - Challenge to RP Community. K Sakai	S12.1.3
09:55	Points at Issue on Radiation Protection following Fukushima Accident. T Hattori	S12.1.4



Issues Associated with Radiation Protection after Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Disaster

*- Responses of and Recommendations from
Japan Health Physics Society -*

17 April 2012

Japan Health Physics Society



AOARP Regional Meeting
(17th May, 2012)